

同志社大学スポーツ健康科学部
2016年度 スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
結果講評について

同志社大学スポーツ健康科学部長

同志社大学スポーツ健康科学部は、2015年10月23日に2016年度「スポーツ能力に優れたものを対象とする特別入試」の合格者を発表しました。

この入試は、高等学校在学中、学業とスポーツに真剣に取り組み、大学入学後も勉学と競技活動の両立を目指す皆さんを対象としたものです。出願に際しては、全国大会に正選手として出場するとともに、高校入学時より第3学年第1学期末までの評定平均値が3.2以上であることが条件となります。

本入試は、第1次選考の書類審査(50点満点)、第2次選考の小論文審査(50点満点)と面接審査(20点満点)で行われ、合格判定は、第1次選考と第2次選考の結果を総合(120点満点)し、厳正に選考します。

第1次選考は受験者の競技成績を中心に行い、判定に際しては各競技種目の競技人口、大会の規模、競技バランス等も加味し、詳細に検討しました。その結果、今年度は59名を合格としました。受験者総数は87名でしたので、この時点で倍率がほぼ1.5倍です。

第2次選考の小論文審査では、アスリートとしてのコンディショニング法について問い掛けました。前年度の課題と同様、競技者としての視点を絡ませて、科学的な「知識」や「物の見方・考え方」を論理的・客観的に思考し、記述できる能力が必要となります。

また面接審査は、受験生1名に対して2名の教員で実施しました。同志社大学スポーツ健康科学部への強い進学意欲があり、本学部の教育・研究等をよく把握している受験生が多い中、残念ながら大学での学習意欲を感じることができない方も若干名いました。本学部はスポーツや健康に関するサイエンスを学習する場であり、クラブ活動のみを行うことを希望される場合は、適切な進路先とは言えません。本入試の趣旨の通り、入学後に学業と課外活動を両立させる強い意志を持つ方を希望します。

以上、第1次および第2次選考により41名の合格者を決定しました。今回の合格者は入試要項に記載の通り、本学部のアカデミック・ポリシーの実現のため、様々な競技種目から選出されています。この入試で合格された方が今後本学部を経て社会やスポーツ界のリーダーとして活躍されることを期待します。

以上

<2016年度 入試データ>

	合計	男子	女子
受験者総数	87名	51名	36名
第1次選考合格者	59名	36名	23名
第2次選考合格者	41名	22名	19名

<合格者の競技種目>

アーチェリー、アイスホッケー、バドミントン、ボート、フェンシング、ハンドボール、柔道、カヌー、空手道、テニス、硬式野球、ラグビーフットボール、陸上競技、サッカー、ソフトボール、水泳、ライフル射撃、少林寺拳法、新体操、卓球、ラクロス、軟式野球、チアリーディング、テコンドー、バドントワーリング

○小論文 <試験問題>

スポーツの競技大会において選手が優れたパフォーマンスを発揮するには、心身ともに良好なコンディションで臨むことが重要です。コンディショニングの中でも心理学的な観点と栄養学的な観点については、競技者のレベルを問わず重視される傾向にあります。心理学的コンディショニングのひとつとして、「ルーティン」と呼ばれる試合前の行動などを努めて同じに統制する方法が、優れたパフォーマンスの発揮に役立つと考えられています。この例として、メジャーリーグで活躍する著名な日本人野球選手が、シーズン中の試合日にいつも決まってカレーライスを食べていることが報じられ、これを模倣して毎日のようにカレーライスを食べる者も現れました。しかし、栄養学の観点からは、このような食事の摂り方は、むしろパフォーマンスの低下をもたらすことが懸念されます。

問1. 上記の例のような単一メニューの繰り返し摂取が健康面にもたらす弊害について、あなたの考えを述べなさい（400字以上 600字以内）。

問2. 一つの視点にとらわれたコンディショニング方法では、優れたパフォーマンスを発揮することは難しくなります。スポーツ選手は試合に向けてどのように準備していくことが求められるのでしょうか。あなたの考えを述べなさい（400字以上 600字以内）。